

長野県図書館協会
デジタル版 **小中学校図書館部会だより**
第142号（平成27年度）

第65回 長野県図書館大会

～現在の図書館と未来の図書館を考えよう～

佐久支部代表 佐久市立中込中学校 小林克雄

第65回長野県図書館大会が「歴史と文学と坂のある高原の城下町」小諸市で開催されました。佐久では10年ぶりの県大会開催です。

今回の大会は、新生小諸市立図書館のこけら落としの意味もあり、11月中旬の開催となりました。大会運営職員の増員や施設貸与の面で、小諸市の全面的な協力をいただき実施できたこと、開催地企画として三つの分科会がもたれ、小諸地区や佐久地区の読書活動に関わる多くのグループの結束を図る場となったことに大きな意義を感じます。

特に、全13分科会の内、8分科会を市民交流センターで開催。新生図書館が市民交流センター内にあるため、市民交流の一拠点として作られた新図書館を見学する参加者も多く、こけら落としのねらいがほぼ達成されたように思います。

全体参加者は約570名。県下各地から参集された方達に心より御礼申し上げます。

さて、以下に今回の県大会・小中分科会で工夫改善した事を列記いたします。今後の参考になれば幸いです。

1 テーマに沿った講師の人選をしたこと

・図書館の環境が大きく変わっていく今だからこそ、今後の図書館のあり方を示唆していただく方を！という願いのもと、本会事務局に多大な協力を仰ぎ、前国立国会図書館長の長尾真先生をお呼びしました。

2 分科会運営で

①分科会数を6つから5つに減らしました。

・以前は学校司書と司書教諭の合同部会があったのですが、それをなくしました。

②分科会人数を35人にしました。（※ただし第5分科会は55名定員）

・中学校を会場に使うことが多い小中部会です。会場校の負担を軽くするためにも35人が適切と考えました。ただ実際には全ての分科会で参加人数が上回ってしまいました。今後の課題かと思えます。

③「読書指導のあり方」分科会のテーマを二つに分けました。

・図書館の機能は、読書センター・学習センター・情報センターの三つです。特に学習・情報分野での実践が今後の図書館運営のカギになると思い、位置づけました。

④分科会は、小グループ熟議形式としたこと。

・各レポから学んだことや各学校の実践を語り合う場、意見交流をする場になればというねらいです。

⑤各分科会に世話係をおいた事

・世話係が分科会の進行、小グループ分け等を行い、司会者と連絡を取るようにしました。前の打ち合わせがなかなかできないためです。

小雨の中の大会でした。お帰りになる際、にこやかな顔で帰られる方が多かったことに、今大会が学びの会になったかなとひそかに思ったことでした。

第65回 長野県図書館大会に参加して

軽井沢町立軽井沢中部小学校 新津 貴子

本年度は、小諸市で長野県図書館大会が開催されました。午前中は小諸市文化センターで前国立国会図書館長の長尾真先生の基調講演があり、午後は小諸市市民交流センターと小諸市立小諸東中学校に会場を移して、分科会が開かれました。

第7分科会では、木島平村立木島平中学校と茅野市立永明小学校の実践報告から学ばせていただくと共に、少人数のグループに分かれ、実践報告についての意見交換や、各校の実践・課題などについて交流を持つことができました。

木島平中学校の実践からは、図書館が哲学・平等・探求によって形成されている場所であるという視点を持ち、生活の中に、また学習の中に図書館を意図的に位置づけ、子どもと共に学ぶ教師の姿勢を学ばせていただきました。



永明小学校では、図書館を活用した教科学習に取り組まれており、多くの学年の事例を紹介していただきました。中でも図書館を活用した「教科学習」と「授業」がそれぞれに構造化されていることが大変参考になりました。また、事例に登場する子どもたちは、自分の課題をはっきりさせるためにも、また追究するためにも、図書館を活用しています。教科としてつける力を明確にし、図書館で学んだことをどう使うかということをはっきりさせた上で、図書館の活用に取り組んでいかなければならないことを改めて感じました。

グループ協議では、各校の様子をお聞きする中で、図書館を効果的に活用するために学級担任と図書館司書が連携していくことの大切さが共通して出されました。図書館を通して学校生活をより豊かなものにしようとしている先生方の熱心な討議に、学ばせていただくことが多くありました。



助言者の宮島卓朗先生からは、「図書館で何をしたいのか」を、教師自身が持つことの大事さをご指摘いただきました。今回の研修で学んだことを、図書館教育に関わる私たちから発信していくことで、学校図書館はもっと魅力ある存在になっていくのではないかと考えた一日になりました。発表いただいた先生方、県下各地よりご参会いただいた先生方、運営に携わっていただいた先生方、多くの方の支えがあって開催された長野県図書館大会に参加させていただいたことを感謝いたします。ありがとうございました。

地区学校図書館教育研究会から

北信地区

11月11日 中野市立平野小学校 中野市立中野平中学校

平成27年度 北信地区学校図書館教育研究会を実施して

中高支部代表 中野市立平野小学校 横倉 隆夫

長野県図書館協会小中学校部会は、「豊かな学びの中核となる学校図書館～司書教諭との連携による学習・情報センター～」をテーマに、「読書意欲を高め、考えを深める読書指導研究を通して、創造力を培い豊かな心を育む」ことを本年度の第1重点として活動に取り組んでおられます。

中野市立平野小学校・中野平中学校では、北信地区研究校として上記のテーマや重点をふまえ、「生きる力を育むこれからの図書館教育のあり方」をテーマに研究してきました。

本校では、子どもたちがより読書に親しんでほしいという願いをもとに、テーマ読書において、「気持ち強く動いたところ」「心に残った言葉」「お話の中で大切だと思ったところ」等の観点をもとに、「ポップ」作りを行い、本の面白さを他学年と共有する活動を通して、読書への興味・関心を高める学習（「本は友だち～ポップを作って紹介しよう」）を考えてみました。



当日は、3年生に自分のお勧め本を「ポップ」で紹介した4年生の子どもたちが、本の感想を3年生の友だちと共有する体験を通して、本とのかかわりを広げ、本により親しみをもつことをねらいに授業が展開されました（授業者 鈴木真理子教諭）。

以前はあまり読書に興味を示さなかったA児が、3年生の感想を読み、「メッチャうれしいこと書いてもらった。チョーうれしいわ」と満面の笑顔で呟き、「言葉だけの本でも、絵を想像して読みたい。長い本でも最後まで読んで、なるほどわかったというようになりた

い」と今後の読書の抱負を記していました。

また、中野平中学校では、山崎智子教諭が「お勧め本のキャッチコピーを考えよう」の内容で、授業を公開してくださいました。

両校とも素敵な研修の機会を与えていただきました。豊かな人生を支える読書活動がより深まるように、今後も研究を積み重ねてまいります。

講演会は、茅野市立玉川小学校教頭 三澤ゆり先生に、「広げる 深める 伝える～もっと読書活動のすすめ～」と題して「読書活動の先に目指すものは、課題を自ら解決しようとする力」であることを、ご講演いただきました。

小中それぞれの授業研究会でご指導いただいた、中野市立中野小学校長 堀内敏明先生、長野市立安茂里小学校長 和田敦先生をはじめ、ご参会の皆様には厚く感謝申し上げます。



北信地区学校図書館教育研究会に参加して

中野市立永田小学校 小林 真美子

この春、永田小に赴任して、数年ぶりに図書館教育に関わる立場となりました。全校65人という山あいの小さな学校で、どのように子どもたちの読書活動を充実させていくか、いかにして魅力ある図書館作りを行うのか、一緒に赴任した司書の先生と試行錯誤しながら取り組んでいる毎日です。

さて、今回、平野小での「本は友だち～ポップを作って紹介しよう～」の授業を見せていただき、おすすめ本を紹介する活動に終わらず、相手から感想をもらって、「相手も同じことを思ってくれたんだ。」とか「自分とは、違う考え方をしている。」等、感想を交流させて、また、自分の考えを深めるというやりとりができることの大切さを学ばせていただきました。

また、講演会では、玉川小学校の三澤ゆり先生より、学校図書館活用のすすめとして、「1 学びを広げる」「2 学びを深める」「3 学んだことを伝える」という三つの視点から、お話を伺いました。本を借りるだけでなく、調べ学習をして、絵本や図鑑にまとめて伝えるなど、工夫しながら取り組むことの必要性や、情報発信としての活用が求められるのかなと感じました。

今回、図書館教育研究会に参加させていただき、自分でも取り組んでみたい学習や興味深い活動に触れることができ、改めて図書館教育の奥深さを感じました。今回学んだことを生かしながら、クラスの読書活動や図書委員会の取り組みなど、日々の実践につなげていきたいと思っております。

「中信地区 学校図書館教育研究大会を終えて」

安曇野支部代表 安曇野市立堀金小学校 勝家 昌昭

I 平成 27 年度「中信地区学校図書館教育研究大会」は、10月15日(木)午後、安曇野市 立明科中学校・明南小学校を会場として次の通り開催されました。

- 1 研究テーマ 「自ら学び、豊かな心を育てる図書館教育はどうあったらよいか」
 - (1) 小学校・・・子どもが自分の願いをもち主体的に調べたことを相手にわかりやすく伝えるための支援のあり方
 - (2) 中学校・・・生徒が目的を持って学べる図書館教育

2 公開授業・授業研究会

小・中	授業学級	教科名	単元名	授業者	指導者
明南小	4年1組	国語	だれもがかかわり合えるように	上野まり子	中信教育事務所 学校教育課 指導主事 藤木拓道
明科中	1年3組	社会	北アメリカ州	小松寛志	総合教育センター 専門主事 春日直史

3 講演

演題『情報化の時代をどう生きるか』 講師 遠藤 武文 氏 (推理小説作家)
プロフィール 安曇野市明科出身 2009年 小説「プリズン・トリック」で江戸川乱歩賞 2010年 信毎選賞

II 各教科研究会、教育会諸行事、各種協議会等の出張が重なる中、56名の教職員の方 のご参加をいただきました。本稿では、参加していただいた皆様の声 (一部) を紹介し、実施報告といたします。

1 公開授業 (授業研究会)

- (1) 調べ学習でつけた力がはっきりと分かり、発表に向けて子どもたちが見通しをもって、仲間とかかわり合って取り組む姿に感動した。「複数の本を調べた後で、私はこの本のここに注目しました」の発言からただ調べるだけでなく、自分の考えや気づきを付け加えている学びが参考になりました (小：国語)
- (2) 北アメリカ州の授業の流れ、子どもたちの調べ学習の姿から、「学習・情報センター」としての図書館の活用が年間計画にきちんと位置づけられていたことに感心しました。自校に帰って、図書館司書の先生に周知し、年間計画を見直したと思います (中：社会科、小：国語科)。

2 講演会

- (1) 今はインターネットでほとんどのことが瞬時に分かってしまう時代。子どもたちもそう感じていると思いますが、インターネットの情報は、必ずしも正確ではないと思います。本を紐解き、自分の予想や他の資料と対比しながら苦労して調べる活動の大切さを再認識しました。
- (2) 小さいうちにどれだけたくさんの本を読むことが、どんなに大切かということを教えていただいた。普段何気なく見ているメディアがどれだけの影響を与えているのかということも痛感させられた。図書館司書として今後どのように読書指導や読み聞かせをしていくべきか考え直す機会をいただいた。

III 最後に

『今日教えていただいた”図書館活用カリキュラム表”づくりを司書の先生と相談して挑戦してみようと思います』・・・本研究大会が協働して学び合う場になったことをうれしく思います。授業公開をはじめ研究大会の運営にご尽力いただいた明南小学校・明科中学校の先生方、児童・生徒の皆さんに感謝申し上げます。ありがとうございました。

「中信地区学校図書館教育研究大会に参加して」

大町市立第一中学校 司書 丸山 智誉

(1) 公開授業(明科中学校1年:社会科)を参観させていただいて

学校図書館を運営していく中で、明日から実践できそうな「図書館活用カリキュラム表」がわかりやすくとても参考になりました。また、敢えて情報の溢れる図書館で自分の求める情報を時間内で見つけ出す力は、教科学習を超えて情報化社会を生き抜く生徒にとってとても重要な力であることを改めて認識しました。

授業では、開始10分でほぼすべての班が資料を選択し、終了時刻5分前には集めた資料の片付け、発表準備を終えていた。生徒が時間を意識して学習を進め、限られた時間内で「北アメリカ州にはどんな特色があるか」を様々な視点から解決しようとしていたこと。そして、白地図の発表原稿を3~4m離れて仲間の見やすさに気配りをしている姿がすばらしかった。

(2) 講演会『情報化の時代をどう生きるか』(講師:遠藤武文氏)を聴いて

情報源の責任については、よく話題になっているが、情報を流している意図を考えるとという視点は、やはり普段から情報を扱う職業の方ならではあるなど思いました。「情報を捨てる」時代に生きる生徒に情報の重要性をどうやって根付かせていくか。とても考えさせられました。

南信地区

11月13日 伊那市立西箕輪小学校 伊那市立西箕輪中学校 西箕輪ぬくもり館

平成27年度 南信地区学校図書館教育研究会を実施して

上伊那支部代表 伊那市立手良小学校 唐澤孝則

南信地区学校図書館教育研究会は、西箕輪地区を会場に4分科会構成で開催し、諏訪・上下伊那地区から130名の参加をいただきました。

第1分科会西箕輪小学校会場は、生活科の「まめまめ大さくせん」の授業を実施しました。大豆の栽培から豆類への興味を広げた児童たちが収穫した豆でどんな料理ができるのか、図書館の本を使って調べました。参観者からは「生活科で育てた自分の豆に対する思い入れが感じられる授業で、一生懸命にたくさん本を調べる姿に感激しました」という感想をいただきました。

第2分科会西箕輪中学校は、「作品の魅力を伝えるポップをつくろう」という授業を実施しました。ポップに載せる「おすすめポイント」を再検討する場面に、参観者からは「教室に置くポップを書くことで、生徒と本の距離が縮まるのだと感じた」という感想をいただきました。

第3分科会は、県短期大学非常勤講師の下沢洋子先生による「選書と読み聞かせ」の分科会です。参加者からは「読み聞かせの実演や本の紹介を入れながら説明して下さったので、とても分かりやすい」という感想をいただきました。

第4分科会は、ポプラ社広報CSR室長の飯田 建先生によるポプラディアを使った模擬授業を行いました。「調べることの楽しさを子どもたちに伝えたい」「ポプラディアの授業ヒントがたくさんつまっていて、すぐに使えるものばかりでした」等の感想をいただきました。

講演会は、ポプラ社広報CSR室長の飯田 建さんに「知を編む -英知への架け橋-」のテーマで話をいただきました。「本を編むことは、人の智を編むことだと痛感した」「『人類の知恵を集めた場所が図書館である』という言葉聞いて、自分の仕事を誇らしく感じた。学校図書館の可能性が見えたような気がする。」等の感想を多数いただきました。学校司書と図書館教育係や司書教諭がともに学ぶ場をもち、連携して図書館教育・読書推進に取り組むことができることを願い企画しました。参加者の感想を見ると当初の目的に近づけたのではないかと感じています。

「本との出会いは偶然ではなく、必然！」（参加者の声）

伊那東小学校 大林 美智代

「読書活動」と一言で言っても、その中身はさまざまです。今回、西箕輪中学校で参観させていただいた読書活動は「作品の魅力を伝えるポップをつくろう」という単元での国語科の授業でした。「目的をもった読書」と言えるかと思います。グループ学習で作品を共有し、アドバイスできるように同じ本を読んでポップ作りに取り組んでいました。学習カードには「イチ押しフレーズ（引用）」「おすすめポイント（紹介文）」を書いていきます。同じ本でもそれぞれ個性が出ていて素敵でした。読み手の感情、それまでの経験によって伝えたいものは違ってきます。グループで取り組むことで友だちとの感じ方の違い、それぞれ違って当たり前なんだ、ということ。質問をすることで友だちの思いを知り、それを認めていく。1冊の本から奥深い気づきのできる授業だったと思います。また、授業でなければ手に取らなかった本との出会いも、生徒達のこれからの支えていくものになるんだろうなあ、と思うと、「本」との出会いって、素晴らしいなあと感じました。

講演会ではポプラ社の飯田建さんのお話をお聞きしました。作者・著者の思いを考えて本を読むことは多いと思いますが、編集者、出版者の思いを考えるということは、私の中にはないことでした。飯田さんのお話を通して、本の接し方が変わりそうです。私にとって本は切っても切れない大切な物です。これからも本との出会いを大切にしていきたいです。

長野県図書館協会 小中学校図書館部会だより 第142号
発行日 平成27年12月10日
発行者 長野市若里1-1-4 県立長野図書館内
長野県図書館協会 小中学校図書館部会（代表 鈴木明）